

### 事例 3

- ・ 早期発見
- ・ 資料収集, 診断, 指導仮説
- ・ 指導体制

## を中心にまとめた事例

— 孤立状態からみんなの仲間に入れるようになってきた中学生 —

1. 主訴 集団不適應
2. 対象 中学校1年 女子
3. 問題の早期発見並びに問題の概要

#### (1) 問題の早期発見

1学年担任のA教諭は、互いに助け合うクラスづくりを考えた。そのために、まず、常日ごろから生徒とのふれあいを多くし、一人一人をよく観察して生徒理解を深めることを心がけていた。

B子は、中学校入学以来、口数が少なく、クラスではいつも目立たない存在であった。担任のA教諭がそんなB子を気にかけるようになったのは、昼休み時間に、図書室で一人読書をしているB子の姿をよく見かけるようになったからである。

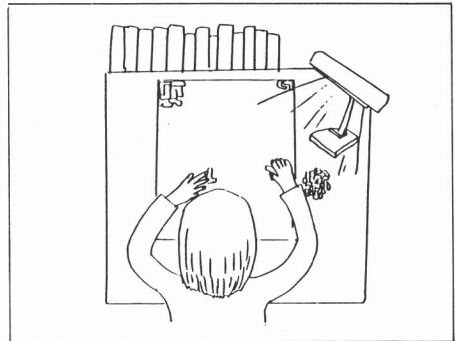
「いつも熱心だねきみは、本が好きなの？」そう尋ねても、B子から元気な返事が返ってくることはなかった。たまにクラスの女子生徒が出入りしても、声をかけ合うこともなく過ごしていた。

もしかしたらB子は楽しく行動を共にする友達をもたず、クラスの中で孤立していて、昼休みになるといつもこうして、一人図書室で時間を過ごしているのではないのだろうか。そんな懸念が的中したのが、席替えのため実施したソシオメトリック・テストの結果であった。(5月実施)

被選択数	2	被排斥数	19
相互選択数	1	相互排斥数	5

被排斥数の示すとおり、B子はクラスの多くの生徒から排斥され、孤立状態にならざるを得なかったのである。

次の絵は、“生活を描く”というテーマでクラス全員に描かせたものである。生徒の多くは友達との学校生活を題材として描いたのであるが、B子は、家のなかで一人、ジグソーパズルをしている自分を描いたのである。A子を取りまく状況を察知すると、この絵にも、B子の現在の心境が語られているように思えてならなかった。



6月に入ると、B子の孤立化が深まるばかりか、体の不調を訴えて早退することや、さしたる理由もなく欠席することが目立ち始めた。このままでは、不登校に陥ることが十分予想されたので、早急に対応する必要に迫られた。

#### (2) 問題の概要

- ・ 集団から孤立し、友達と交わらず、一人で過ごすことが多い。
- ・ 理由のはっきりしない早退や欠席がときどき見られる。